

上海稲門会について

部会、各学部会、国際結婚部会など、会員が主体的に取り組む交流活動も活発だ。

上海の魅力といえば、何よりも「都市自体の活気」であろう。この都市に来た日本人のほとんどが、驚きを覚え、刺激を受け、ワクワクし、自らのさらなる可能性を感じることができる環境であるがゆえ、「進取の精神」を地でいく稲門人にとってはうってつけの場所だといえるかもし

れない。それゆえか、上海稲門会は常に先輩後輩の壁を越え、お互いを刺激しあい、助けあい、そして何かを創りだそうという活気に満ち満ちている。



忘年会

発 展まじい“新興国の龍”である中国のなかでも最も日本人の人口が多い上海市(7万人ともいわれる)を中心にした早稲田卒業生・留学生が集う会だ。「集り散じ」る稲門会会員ゆえ正確な会員数把握は大変難しいが、登録者は450名を超え、「隠れ上海稲門会」まで入れれば700人とも800人ともいわれる。世界で最も多くの校友が集まっている稲門会の一つであることは間違いない。

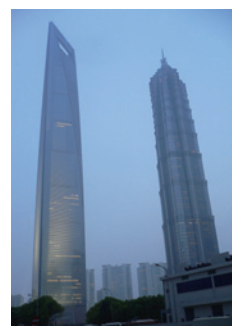
毎月第3水曜日を定例会日と定め、稲門の親子二代で経営する日本料理店「誠」に平均50名の参加者を集めている。分科会活動としては、ゴルフ部会、イベント定例

上海の魅力

上海の歴史は170年と浅く、第二次世界大戦前は、欧米列強と日本の秘密諜報員が暗躍し、占領地をめぐる駆け引きが繰り返され、アジアで最も魅力的かつ危険な魔都として名を馳せました。1949年の中華人民共和国建国以降は、中国経済復興の牽引車となり、1980年代以降は改革开放政策のなかで急激にその地位を高め、中国の近代100年の文化を見るなら上海へといわれる「中国近代都市の象徴」でもあります。

上海には現在約4500社の日系企業が進出しており、長期滞在の日本人が最も多い都市です。日本人学校も黄浦江を境に西と東に1校ずつ存在し、在校生が総数約2700人という世界最大の日本人学校となっています。

江頭利将(幹事長、1990年理工)



上海環球金融中心と金茂大廈



裏道

上 海市は、約6341km²の面積に常住人口約2300万人の人びとが住む中国最大の国際都市であり、日本を含む外国列強の租界地として発展してきた場所です。租界地としての古さと、近年の経済発展による新しさが、渾然一体となって成立している特異な都市であることが最大の特色です。

会員からのメッセージ

●1月14日に、ご家族も巻き込んだの稲門会イベント「新年会」を開催しました！ご家族も含め96名のご参加。企業からの協賛品も数多く集まり、ゲームあり演奏あり寸劇ありの、とても楽しいひとときを過ごしました。この早稲田のごった煮のような感じ、すごく大好きです。



ワセジョの会

若手と女性が多いのは、この大きな特長。毎月の定例会以外にも、学部で集まったり、若手で集まったり、ワセジョの会を開いたり、交流も盛んです。上海にお越しの際は、ぜひ上海稲門会にお立ち寄りください！

山田扶美子(2001年商学)

●上海の地に早稲田があった!! 初の就職先が上海だった。右も左もわからぬまま初めて訪れた上海。そこは日々変貌を遂げる世界で最も勢いのある都市だった。しかし初めて上海稲門会を訪れた私は、そこに懐かしい空気を感じた。高田馬場で浴びるほど酒を飲み、一風堂でシメのラーメンを食べた直後に……(以下検閲により削除)。人間ラーメン製造機といわれたあの日の思い出が蘇る。集り散じて人は変わる。散じた人びとは、どこに行くのか? 早稲田の地で早稲田の遺伝子を受け継いだ人びとはまた世界のどこかで集まって新たな繋がりを生み出している。常に変わりながら、いつまでも変わらないもの。上海稲門会にはそれがあります!

米澤隆弘(2002年教育)

会員数の謎

上海稲門会のメンバーリストには約650人が名を連ねる。「上海稲門会について」の項では「登録者は450名を超え」とあるのになぜ? 実は、帰国者でつくる上海稲門会東京支部もあり、活発に活動している。上海での繋がりが、空間を超えて広がり、そして時間を超えて続いているのだ。東京支部ではすでに帰国された駐在経験のある方の参加も歓迎している。

会長メッセージ

2011年10月に前小林会長より上海稲門会会長を引き継ぎました。

発展著しい中国、そのなかでも上海においては、登録人数450名あまりと世界最大規模の卒業生を擁しております。昨年は毎月開催している定例食事会も常時50~60名が参加しており、新メンバーも常時迎え入れつつ、和気あいあいな雰囲気での交流を深めております。もう一つの活動の中心、ゴルフ部会においても8月上海大学対抗戦、10月東京六大学戦、11月早慶戦、12月早同戦、すべてに優勝し春季大会連覇に向け部員全員で特訓中です。



六大学対抗ゴルフコンペ

今年は上海で奮闘している稲門会会員を一層応援し、家族と一緒に参加できるイベントや、上海に戻った中国人留学生たちとの交流を、さらに深める取り組みに力を入れていきたいと考えております。

会員1人1人が進取の精神をもって積極的に参加し上海稲門会を盛り上げてくれています。私自身も1人でも多くの稲門の方々にお会いできることを、心より楽しみにしております。

伊藤 靖(1979年教育)

●「早稲田でよか仲間ばつくってきやい!」小さいころから早稲田出身の父親が言っていた。

在学中にも多くの仲間に恵まれたが、前任地のシンガポール、そして、ここ上海で出会った稲門会の先輩や仲間は人生の宝となろう。

上海は各校の同窓会活動も盛んで、当方が幹事をつとめるゴルフ対抗戦も毎回熱い戦いである。集り散じて人は変れど、おっさんたちが負けては泣き、勝ってははしゃぐ。2011年は全国大学対抗(40校320名)、東京六大学(6校100名)、早慶戦、早同戦で優勝。先輩や仲間と美酒を浴び、校歌と紺碧を高らかに歌った。

父上、おかげで、上海でも、よか仲間にも恵まれますバイ。

伊佐尚一郎(1995年商学)

上海稲門会の人びと

People